

## 63

## 新たに案出せる細菌芽胞染色法に就て

里見 三男 山中 太木 藤本 哲

(大阪高等醫學專門學校微生物學教室)

最近我が教室に於て細菌芽胞染色に關する二つの方法を案出し、何れも夫々特徴があつて實施に優秀を誇り得ると思ふ。依つて之を速報して大方の批判を請ふ次第である。

## 1. 山中太木の細菌芽胞染色法

1. 材料塗抹、火焰固定若しくは自然乾燥。
2. フクシン・グリセリン・石炭酸水混和液滿載、靜置、染色。  
フクシン・グリセリン・石炭酸水混和液は5%石炭酸水95 cc, グリセリン5 cc, フクシナルコール飽和液5ccの比を以て混和し製す。
3. 水洗。
4. 2%マラヒットダリュールン水溶液滿載、1-1.5分間靜置、染色して赤色消失に到る。
5. 水洗、乾燥、鏡檢。

この染色法が操作簡易であることと、染色標本が美麗なる點に於て推奨するに足ることを強調したい。なほ本染色法によれば、細菌體は綠染若しくは青染し、芽胞、特に完成せる耐久體は赤染し來り優美快適なる標本を手にする事が出来る。

## 2. 藤本哲の細菌芽胞染色法

1. 材料塗抹、但し之には蒸溜水を用ゐ、火焰固定に附するを可とす。
2. 媒染液滿載、加温1-2分間、白濁液の透明化する迄加温、20-30秒間放置。  
媒染液は5%タンニン酸水溶液100 ccを50<sup>o</sup>-60<sup>o</sup>Cに加温、透明化を俟ちて放冷、冷却後2%吐酒石水溶液40 ccを加へて製す。なほ之に石炭酸水を1%の比に加ふれば保存に堪う。
3. 媒染液を傾注し、充分に水洗す。
4. チール氏石炭酸フクシン液滿載、5-10秒間靜置、染色。

[醫學と生物學・第1卷・第5號・頁216-217・昭和17年3月5日]

## 5. 水洗, 乾燥, 鏡檢.

此の染色法により細菌芽胞を容易に且つ鮮明に染出し得ることを推奨す。而も亦完成耐久體の染出と相竝んで、菌體內に芽胞形成初まり、他の染色法では染出困難な芽胞小體を克く染色し來るを以て、此の染色法により特に細菌芽胞の發生狀態を追及する手段とするのに好適である。藤本哲が本染色法を案出した経緯は、寧ろ芽胞染色法を主とするのでなくして、細菌微細構造の研究を行つて居り、特に細菌芽胞形成に關する實驗的研究に従つて居る際の副産物となつたものである。

(受附：昭和17年1月28日)